

学校だより
平成26年
11月14日号

はるにれ

海老名市立
有馬小学校
校長 宮原謙二

本とペンこそ最も強力な武器

「昨年7月12日、アメリカニューヨーク州の国連本部で、16歳の少女が演説を行いました。この演説が全世界の人々を感動させ、大きな反響を呼びました。この少女の名前は、マララ・ユスフザイ。パキスタンの16歳の少女で、今年ノーベル平和賞を受賞しました。」

11月10日（月）の朝会で、子どもたちにマララさんの話をしました。難しい演説の一部を紹介しながら話をしましたが、低学年の子どもたちも最後までよく話を聞いてくれました。今、日本は平和です。銃におびえて生活することはありません。教育を受ける権利が保障されています。勉強しようと思えば、いくらでも勉強することができます。

「皆さんはどうですか？つい気持ちがゆるんで怠けていることはありませんか？」と問いかけました。先生の話をしっかり聞き、こつこつと努力を積み重ねて2学期を終えてほしいと思います。そして、良い新年を迎えてほしいと願っています。

最後に、マララさんの言葉を載せたいと思います。



ペンは剣よりも強しということわざは本当でした。過激派が昔も今も恐れているのは、本とペンです。教育の力は彼らにとって脅威なのです。

一人の子ども、一人の教師、一冊の本、そして一本のペンが、世界を変えられるのです。教育以外に解決策はありません。教育こそ最優先です！

はるにれフェスタ・バザー大盛況

PTA本部さんを中心にPTA役員さんが1学期から計画を練り、こつこつと準備を進めてくださった「はるにれフェスタ・バザー」が、10月25日（土）に盛大に行われました。

学級委員さんの砂絵・コイン落とし、ビーズアクセサリ・スライム、図書ボランティアの古書販売等、楽しい催しがいっぱいでした。地域の方々の催しとしては、青指連の工作、消防団の消防体験、運動公園のポニーと遊ぼう等、貴重な体験をすることができました。バザーでは、駄菓子・あてくじ、おにぎり・コロッケ、フランクフルト・綿菓子、花・野菜の販売、落書きせんべい・型抜きラムネ、たくちゃんのパン屋さん等の販売があり、子どもたちは目を輝かせながら、所狭しと駆け回りとてもよい時間を過ごすことができました。



PTA本部さん、PTA役員さんの皆さん、そして、地域の皆様、各団体の皆様、子どもたちのために本当にありがとうございました。

PTA本部さん、PTA役員さんの皆さん、そして、地域の皆様、各団体の皆様、子どもたちのために本当にありがとうございました。

兎の落とし物

10月、
連合運動会
400mリ
レーの練習
をした後
に、写真の
ような丸い
固まりを校
庭で発見し
ました。



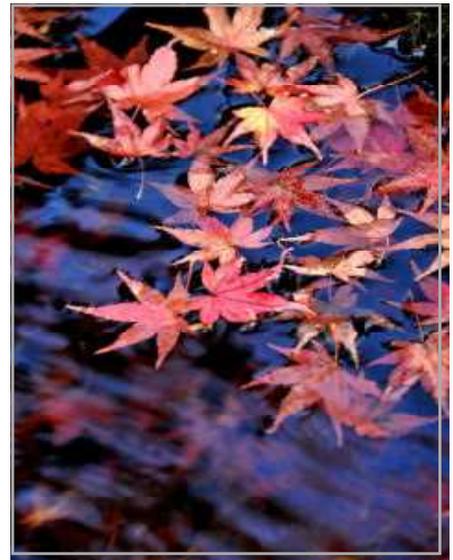
6年の担任の先生が拾ってよく見ると、どうやら兎の糞のようです。きっと野ウサギが夜、校庭にやってきて遊んでいるのだと思います。こんなことが何回かありました。

昼間はありまっ子の歓声に包まれ、夜は兎の遊び場になる有馬小学校の校庭。有馬らしい長閑な落とし物に、心が和みました。



行事予定

11月	15日(土) 学校1日開放日(ありま祭り)
	17日(月) 振替休日
	20日(木) 登校指導
	23日(日) 勤労感謝の日 24日(月) 振替休日
	25日(火) 児童朝会
12月	1日(月) 朝会
	2日(火) 家庭教育学級「親子のための整理収納の基本」
	4日(木) 5年生学年発表
	8日(月) 児童朝会
	15日(月) 音楽朝会 大掃除週間～
	16日(火) 4年生学年発表
	19日(金) 大掃除(5校時)
	22日(月) 給食終了 短縮日課4校時
	23日(火) 天皇誕生日
	24日(水) 2学期終業式 25日(木)～冬期休業



ありまの歴史4



大正の教育

— 百年周年記念誌より —

大正時代は15年間に過ぎなかったが、その間に人心に衝撃を与える2つの大きな事件が起こりました。1つは、大正3年の第1次世界大戦への参戦と、もう1つは、大正12年の関東大震災です。それぞれが社会情勢や国民生活の上に大きな変化をもたらしました。

大正12年9月1日の関東大震災のため、有馬小校舎全焼、社家、門沢橋両分校も全壊してしまいました。そして、大正15年、学校前に忠魂碑が建てられました。

大正の頃の子どもの服装は、地織りの着物、はんてん、綿入れ(かすり、棒じま)。女子は、メリンスの

前掛けをしており、下駄、わらぞうりをはいていました。髪型は、上級の人はおさげで、たけ長というヘアスタイル、前面に花模様のある紙で作った髪飾りをつけていました。

教科は、修身、珠算、綴方、国史、唱歌、算術、読方、地理、体操、書方、図画、理科、裁縫(女子のみ)がありました。

運動会の入退場門完成



長年使っていた運動会の入退場門の傷みが激しく、今年の運動会では、補修をしてなんとか急場を凌ぎました。そこで、ありまっ子応援団の方々に相談したところ、よい方がいられると本郷にお住まいの大工さん(西海さん)を紹介していただきました。西海さんは、有馬小中の卒業生でもいられて、学校のためならと快諾してくださり、あっという間に素晴らしい門を作ってくれました。

この門の特徴は、台座と上の塔の部分の切り離せることで、持ち運びや格納に場所をとらないという利点

があります。また、色を塗らずに木目を生かした、木の温もりを感じる作品にできあがりしました。大切に使いしていきたいと思えます。

